

第88回定例研究会

9月20日(金)

於：静岡県評会議室

インド・マルチスズキの調査

報告者：太田泰久 氏（スズキの職場を働きやすくする会）

マルチスズキ社とは

マルチ・スズキ・インディア (Maruti Suzuki India Limited) は、スズキのインドにおける乗用車生産販売子会社です。最初は、インド政府との合弁会社「マルチ・ウドヨグ」として1981年に設立され、2002年にスズキが増資して子会社となり、2007年に政府が全株を放棄し、同社の人気車種「マルチ」を社名としました。ちなみにマルチは、英語のMultiではなくMarutiであり、ヒンドゥー教の風神の息子「マールティ」のことです。

マルチスズキ労働組合 (MSWU) とは

2010年に「マルチスズキ従業員組合 (MSEU)」を結成しましたが、会社と州政府は認めず、2011年には累計60日間に及ぶストライキをたたかっています。その後、名称を「マルチスズキ労働組合 (MSWU)」に変更し、2012年2月に登録が承認されました。しかし会社は、組合との交渉を拒否し続けていました。

「暴動」事件とは

2012年7月18日、ハリヤナ州マネサール工場で、午前中に一人の監督がカーズの差別的な言葉を労働者に浴びせたのをきっかけに、暴力が発

生しました。午後には、警察官が大量に工場の回りに配置され、夜7時頃、暴動が発生し、事務所が放火され、管理者の一人が死亡しました。この事件の結果、147名の労働者が拘留され、11名が抗議行動の中で逮捕され、546名の正規労働者と1800名以上の契約労働者を解雇し、労働組合員はいなくなりました。

国際調査団について

マルチスズキ労働組合の要請により、アメリカのICLR (International Commission For Labor Right) が中心になって調査団を結成し、太田氏が参加しました。今年5月下旬に調査を行い、解雇された労働者からの説明、家族との話し合い、警察署訪問要請、州政府訪問要請、中央労働組合連合訪問等を行いました。調査の中で、過酷な労働実態、誰が暴動を仕掛けたか不明、死亡した管理者は労働組合の理解者、会社側によって暴漢が送り込まれた可能性、首になった労働者の多くは当日出勤していなかったこと等がわかりました。

国際調査団の報告

6月27日、国際調査団は「脅しの商人：インド新工場地帯における労働者抑圧 マルチ・スズキ・インディア社の労働者と労働組合の権利侵害」と題する報告書において、以下の確証を得たと発表しました。マルチスズキ社は、結社の自由に対する権利、団体交渉権及び同一労働同一賃金の権利に関する著しい法令違反に關与している、ハリヤナ州労働部は法律を守らせる有効な手立てを取っていない、警察は不当に職権を濫用して、不適當に労働争議に介入した、というものです。

その上で調査団は、拘留されている労働者の釈放、「暴動」事件の究明、労働者の復職、マルチスズキ社が交渉のテーブルに着くことを保証するための第三者機関の設立等を勧告しました。

第54回浜松支所所員会議

9月26日(木) 於：西部地区労連

浜松市職員労働組合の労働実態

報告者：三岡氏(浜松市職員労働組合書記長)

浜松市職の職場では、市町村合併により、職員が減り、一人当たりの仕事量が増加しています。アンケート結果より、4割の人がサービス残業を行っています。その中で、精神疾患による休職者が増えています。労働組合への加入率は5割程度となっています。安心して働ける職場環境作りが求められています。

* 連絡先：〒422-8062 静岡市駿河区稲川 2-2-1 コハラサウスサイドビル 7F
静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>